

■村田春海 国学者・歌人。豪商のかたわら、加藤千蔭と並ぶ江戸派歌人、儒学否定の本居宣長を批判するほどになった。
むらたはるみ
菅原伝授十・1746＝ 江戸日本橋小舟町の干鰯問屋の豪商村田春道の次男に生まれる。

徳川吉宗没・1751＝ 5歳：

自然真営道・1755＝ 9歳：

父，むしろ歌人の兄村田春郷に従い，

宝暦事件・・1758＝12歳：_この頃，賀茂真淵に入門し，後，漢学を服部仲英に学び，

大岡忠光没・1760＝14歳：

のち京都の皆川洪園にも学んでいる。一時，連歌師坂昌周の家を継いだが，

加賀千代句集1764＝18歳：

明和事件・・1767＝21歳：仲英の死後は鶴殿士寧に学ぶ。
久留米藩工事1768＝22歳：_兄春郷が死去したため養家を去り，本家の家督を継ぐ。
_家が富裕であったため，春海の生活ぶりは当時の江戸十八大通の1人として，烏亭焉馬作「碁太平記白石嘶」に大和屋文魚・大口屋暁雨らとともに，漁長として記されている。しかし，この遊興生活に加え，数回の火災のため，後年財を失い，浅草に移った。

田沼意次老中1772＝26歳：
大原騒動・・1773＝27歳：

・・・・・1781＝35歳：_この年出版の南陀伽紫蘭作「油通汚」には'干鰯問屋のかぶも人手にわたし'などと書かれた。
天明大飢饉始1782＝36歳：

のち，また八丁堀に転居するが，_この頃から国学や歌学に専念するようになり，

田沼意次失脚1786＝40歳：

・・・・・1788＝42歳：_本居宣長を訪ねて伊勢松坂に赴き，宣長の国学における高い学識に畏敬している。しかし，宣長の儒学批判には同調せず，むしろこれを批判し，両者の間には，しっくりしないものがあつた。
初横綱・・1789＝43歳：_寛政期に入ると，さらに学に励み，著述活動を盛んに行なつた。また松平定信に仕えて5人扶持を給され，さらに越後国長岡・棚倉兩藩主からも些少の出入扶持を給された。

混浴禁止・・1791＝45歳：
ヲクスマン来日・1792＝46歳：「和学大概」成る。
松平定信引退1793＝47歳：「五十音弁誤」成る。
オランダ正月・1794＝48歳：「椿まうでの記」成る。
仮名研究にも深い造詣を持ち「仮名拾集」「仮名字考証」「仮名大意抄」を著わす一方，和訓のある，わが国最古の漢和辞書「新撰字鏡」を見出して，世に紹介した功は大きい。

蝦夷地直轄始1799＝53歳：「稲掛大平に贈る書」成る。
伊能測量始・1800＝54歳：
本居宣長没・1801＝55歳：「仮名大意抄」刊。
膝栗毛始・・1802＝56歳：「筆のさが」成る。「斉明紀童謡考」，
アメリカ船来航始1803＝57歳：「雅俗弁の答」成る。

青洲麻酔手術1805＝59歳：_京都妙法院宮貞仁法親王(光格天皇の弟)が江戸下府の節，加藤千蔭・谷文晁らとともに召され，「妙法院宮へ奉れる和歌」や，また「妙法院宮御園十二景」などの著作を献じたこともあつた。

間宮海峡発見1809＝63歳：
・・・・・1810＝64歳：新しい居室を設け，そこに父相伝の吾妻琴と書厨子を置き，自ら琴後翁を称した。歌集「琴後集」刊。
_加藤千蔭とともに江戸派と呼ばれ，真淵門下ながら，万葉調より古今調に傾くものであつた。

ゴッホの拿捕 1811＝65歳：_没した。
門下からは清水浜臣・岸本由豆流・小山田与清・本間濤清・小林歌城など多くの優れた国学者が輩出した。著書も，ほかに「県居蔵書目録編」「歌かたり」「岡部家譜考証」「賀茂翁家集編」「時文摘批」「千蔭春海自寛消息」「竺志船物語」「織錦斎随筆」「明道書」など多数。